

中国語における時空表現

保 坂 律 子

Expressions of Time and Space in Modern Chinese

Ritsuko HOSAKA

要旨

汉语中有不少关于时间与空间的表現形式,但是仅限于表示时间的间隔和空间的距离的话,则只集中于几个近义表現形式。

本文作为汉语教学资料,针对汉语教学过程中比较早期出現的“A离B・X”,“从A到B・X”两个表現形式着重进行分析,并加上表示出发点的“从”与之相比较,指出了两个表現形式的相同点与不同点。

0. はじめに

中国語における時間と空間に関わる表現形式は少なくはない。しかし時空の隔たりに限るなら,いくつかの類似表現にしばられる。本論ではそれらの表現のうち,教学の場で比較的早い時期から扱われる2つの類似表現,すなわち“A离B・X”(AはBからX)と“从A到B・X”(AからBまでX)についてとりあげる。さきに保坂1999では出発点「～から」を表す機能としての“从…”について考察した。本論はさらに“离”と彼我対照することにより,中国語における時空の隔たりがどのように表現されるか考察し,両者の共通点と相違点を明らかにすることを通じ教学の資たらしめるものである。

1. “离”と“从…到…”の定義

まず,本論で考察しようとする“离”と“从…到…”の一般的解釈についてみておきたい。《现代汉语八百词》には次のように記されている。

“离”〔動〕

1. 分离;离开。可带‘了、过’。必带名词宾语。

离职回乡 | 已经离了婚了 | 他长这么大没离过家。

2. 缺少。必带‘了’。必带名词宾语。‘离+名’用于句首,有假设的意思。

离了钢铁,工业就不能发展 | 离了眼镜,我简直跟瞎子一样

3. 距离;相距。可带着。必带非受事宾语。

a 表示处所。

天津离北京近,石家庄离北京远 | 离学校不远了

b 表示时间

离中秋只有两天了 | 离开车还有两个小时

c 表示目的

我们的工作离实际需要还差得远 | 我的成绩离老师的要求还有距离

“从”〔介〕

1. 表示起点. 常跟‘到、往、向’等配合使用。

a 指处所、来源。跟处所词语、方位词语组合。

从东到西 | 邮局从这儿往南去

b 指时间。跟时间词语、动词短语或小句组合。

从早到晚 | 从古到今 | 从明天起改为夏季作息时间 |

从开始上学到现在,小花一直成绩好

c 指范围。跟名词、动词短语或小句组合。

从头到尾 | 从小孩儿到大人都投入了战斗

d 指发展、变化。跟名、动、数量组合。

从袁到人 | 从无到有 | 从不了解到比较理解

2. 表示经过的路线、场所。跟处所词语、方位词语组合。

从小路走 | 列车从隧道离穿过

3. 表示凭借、根据。跟名词组合。

从工作上考虑 | 从实际情况出发 | 从脚步声就能听出是你。

上記の記述からは、両者は品詞の上から“离”が動詞であるのに対し、“从”は介詞であるという違いを指摘することができる。なお、本論で考察の対象とする機能は上記で網をかけた部分、すなわち“离”の3. 距离;相距そして“从”の1.b, cに相等する。

2. 空間表現

2. 1 “离”、“从”によって表される空間表現。

まず2地点間の隔たりを“离”、“从”を用いてどのように表現可能か見てみたい。ここでは便宜上2地点A, Bを“北京”、“天津”として考えてみる。“离”を用いた表現で隔たりを表すには2地点をA, Bとするなら、次の1), 1)'のように“A离B・X”「AはBからXだ」という文型をとる。

1) 天津离北京比较近(天津は北京からわりあい近い)

1)' 北京离天津比较近(北京は天津からわりあい近い)

1), 1)'は2地点の隔たりを表すが、主語はそれぞれ“天津”、“北京”であり、表す文意は異なる。1)は「天津は～だ」と天津についての叙述となり「北京から」は連用修飾語に過ぎない。同様に1)'は「北京は～だ」と北京についての叙述となり、「天津から」は連用修飾語である。すなわち“A离B・X”の文型でA,Bを入れ替えると文意は明らかに異なる。また、これらの文の述語は形容詞“近”「近い」であり、状態を表す静的表現となっている点、さらにここでの“A离B・X”の“离”は「AはBからXだ」と日本語に訳出される点に注意したい。

2. 2 “从”による空間の隔たり

次に、1)と同内容を“从”を使った文型で表すことを試みる。すると次の2)が考えられるが、この文は成立しない。

*2) 从北京到天津比较近(北京から天津まではわりあい近い)

その理由は2)の“从北京到天津”「北京から天津まで(の範囲)」は主語となり、隔たりの叙述ではなく「範囲」が主語となるからである。主語「範囲」に対する述語が“很近”では意味が通らない。しかし、次のように述語が具体的距離を表すように変えれば成立する。

3) 从北京到天津有一百二十公里(北京から天津まで120kmある)

この3)での“从北京到天津”(北京から天津まで)のフレーズは連用修飾語としてはたらくのではなく、動詞“有”の主語として“从北京到天津之间”「北京から天津までの間」という範囲を表すものであり、“从北京到天津”のフレーズ全体はひとまとまりとなって、文中で主語として機能している。で

は3)での北京と天津を入れ替えた次の3)'ではどうであろうか。

3)' 从天津到北京有一百二十公里(天津から北京まで120kmある)

この3)'「天津から北京まで120kmある」の主語「从天津到北京」(天津から北京まで)のフレーズは、客観的な現実世界の状況レベル、すなわち「北京から天津まで」という2地点間の範囲としてのそれは3)と何ら変わらない。しかしネイティブのほとんどは3), 3)'のニュアンスが異なると指摘する。その違いとして「北京にいるときは“从北京到天津”といい、天津にいるときは“从天津到北京”というのだ」とか「話し手から近い場所が“从”の目的語になり、遠い場所が“到”の目的語になるのだ」などを挙げて説明する。確かにそういった印象を持つことは否めない。しかし、では日本にいる場合にでも3), 3)'のどちらも言うことができること、また北京と天津、どちらへも等距離にあるような場所にいても3), 3)'のどちらも言い得る、という言語事実をどう説明するのか、という疑問に対しては説得力のある根拠はもたない。つまり、ここでの問題は、2地点間の距離という動きのない範囲に対して方向性を感じていること、そしてそれをどう解釈し説明するのかということであろう。

2. 3 架想経路

ここで解決を与えてくれるのが、Talmyのいう「架想経路」¹⁾という考え方である。簡単に説明すると、架想経路とはふつつ動きのない位置関係に架想された経路が関与しているものとして概念化されたものをいう。実際は静的な位置関係にあるものを説明するためでありながら、移動する経路を想定して説明するものである。この「架想経路」という概念を取り込むと、客観的な現実世界の状況レベルでは主語の意味するところが何ら変わりのない3), 3)'が、全く逆の経路、逆の方向を意味するものとして区別できる。両者は「北京天津間」、「天津北京間」と客観的状況レベルで同じ範囲をいながらも、認知的には経路を想定した異なる意味を表すことが可能になる。したがって、架想経路さえ想定可能であれば東京にいる場合の発話でも“从北京到东京”(北京から東京まで)、“从东京到北京”(東京から北京まで)のどちらをも言うことができる。たとえば、北京にいる友人が初めて日本にやって来るような場合、東京にいる話者が北京から東京までの距離を伝えようとするなら、

4) 从北京到东京大约有x公里(北京から東京までだいたいxKmある)

のように友人の側にたって、北京から東京へ来る場合の架想経路が想定される。この場合、東京にいながらであっても「北京から東京へ」という経路が想定されるのは自然である。さらに、3)での述語動詞“有”は状態を表す動詞であるが、この述語部分を、次のような動的意味を持つ表現に変えても成立する。

5) 从北京到天津坐车要两个小时(北京から天津まで車で2時間かかる)

この5)のように「二時間かかる」のような動的表現で置換可能ということは、また“从北京到天津”(北京から天津まで)が潜在的に移動事態の含みを持つことの表れと考えることができる。したがって5)では“坐车要两个小时”が「北京から天津へ」の移動経路を想定し、それが「車で2時間」かかると考えれば一層理解しやすい。ここでは、決して天津から北京への経路で移動することは想定されていない。仮に5)と逆に「天津から北京へ」の経路で移動を考えるなら、道路事情から当然3時間かかるような事態の可能性も生まれよう。5)'を見てほしい。

5)' 从北京到天津坐车要三个小时(北京から天津まで車で3時間かかる)

すなわち架想経路が異なれば、移動時間も異なることは特別ではない、ということである。事実、たとえば飛行機での移動などでは東京とニューヨーク間を往復すると、行きと帰りでは2時間以上飛行時間が異なるなど、経路が逆になると飛行時間に大きく差があることから理解は容易であろう。

2. 4 “离”による空間の隔たり

“从AB到・X”が移動の含みを持つ一方、“离”を用いて具体的に隔たり距離を表現すると次のよ

うになる。

6) 北京离天津有一百二十公里 (北京は天津から 120km ある)

6)の主語は“北京”であり「北京は天津から 120km ある」と日本語に訳出されるように、5)でいうような「北京天津間」という範囲ではなく、北京という地点に焦点をあてて天津との位置関係を述べるものでここには移動の含みはない。北京と天津を入れ替えた次の

6)' 天津离北京有一百二十公里 (天津は北京から 120km ある)

では主語は“天津”，「天津は北京から 120km ある」となって天津に焦点をあて北京との位置関係を述べるものである。この 6), 6)'は客観的な現実の状況レベルでは同一事態を表す表現として成立する。なぜなら、北京と天津間の隔たり 120km はどちらを主語にしようとも変わらないからである。両者の違いは“A 离 B・X”でスポットがあてられているのは A であり、B はその背景となっている点にあり、この A, B がそれぞれ“北京”，“天津”となっているのである。このとき A と B は「図と地」の関係²⁾にあたる。

ここで北京、天津のどちらに焦点をあてるかは話し手次第である。もし、天津について記述するような時、誰もが知っている首都北京との位置関係から述べるような場合には 6)'のように主語として天津が選ばれる。さらに、6), 6)'では移動経路が想定されないことは“离”の介詞フレーズは状態を表す静的な述語表現の叙述に限られること、加えて移動の含みをうかがわせる動詞“要”を用いた次の 6)"は成立しないことから理解されよう。

*6)" 北京离天津要两个小时 (北京は天津から 2 時間かかる)

以上から、空間的隔たりを表す“从 A 到 B・X”と“A 离 B・X”の相違点をまとめると次のようになる。

“从 A 到 B・X”は 2 地点 A, B 間の範囲が主語となり、かつ実際には動きのない 2 地点間に架想経路が想定されている。一方“A 离 B・X”では A は主語として焦点が当てられ、図と地の関係では図として認識される。また 2 地点間には移動の含みはなく、架想経路は想定されず、したがって述語には動的表現は用いられず、必ず状態を表す静的表現をとる。

3. 時間表現

前章では、空間的な位置関係の表現についてみたが、ここでは“从 A 到 B・X”，“A 离 B・X”の文型で表すものを空間から時間へと拡張して考えてみたい。

3. 1 空間から時間へ、具体から抽象への拡張

一般に直接把握することが困難な抽象的概念は、より具体的な概念から比喩的な拡張のプロセスを通じて理解される。たとえば時間について「長い」、「短い」などの語彙で説明するのはその典型例である。場所や空間などの目にふれる直接把握可能な物理的対象の概念と、時間という抽象的対象の間に私たちは「長、短」の類似性を認識する能力を備えている。すなわち、具体的概念から抽象的概念へ、換言するなら場所や空間といった物理的領域の叙述から時間という抽象概念領域の叙述へと拡張し理解することができるといえる。時空の隔たりも、まず空間の理解から時間の理解へと拡張されてきたと考えるのは自然である。この拡張のプロセスを簡単にまとめるなら、次のようなものである。

具体的概念 (直接把握可能) → 抽象的概念

空間的・物理的な隔たり → 抽象的・時間的隔たり

場所や空間の物理的隔たり

↓

時点を抽象的场所として見立てる

↓
抽象的场所間の隔たり

↓
時点間の時間の隔たり

3. 2時間的隔たり “A 离 B · X”

本節では時間的隔たりを表す“离”のはたらきを中心に考えてみたい。

3. 2. 1. 時間と人間

時間的隔たりを論ずる場合、時間の概念のとらえ方が問題になる。特に時間と時間を把握する人間の関係、すなわち時間と人間の「相対する静と動」の関係を明確にしておく必要がある。「時間の流れ」という語からも察せられるように、一般に時間はある方向に向かって移動していく動的なものと漠然と考えられている。しかし必ずしもそうではないことは次に挙げるような表現の存在からも明らかであり、時間と人間の相対的關係には2つのとらえ方があることに気づく。

① 時間＝動、人間＝静

一つのタイプは時間＝動（移動する存在）、人間＝静（時間の到達点、通過点）というとらえ方である。このタイプの表現では時間は移動する存在として把握され、人間はこの移動する時間の通過点や到達点と見なされている。この表現には次のような例をあげることができる。³⁾

図 1

- i 次の誕生日が来たら、盛大にお祝いしよう。
 - ii 年の瀬が近づいてきた。
 - iii 過ぎ去った日々を懐かしんでいる。
- 時間
●
人間

このタイプの時間と人間の相対的關係は図 1 のように表すことができる。ここでは→で示される時間は移動していく「動」を表し、●で示される人間は動きのない「静」の存在であることを表す。

② 時間＝静、人間＝動

もう一つのタイプは時間＝静（移動していく人間の通過点、到達点）、人間＝動（移動する存在）というとらえ方である。このタイプの表現では移動するのは人間として把握されている。時間は人間が移動していく通過点、到達点、あるいは移動していく起点としての静止した存在と見なされている。ここでは未来は移動していく人間の前方にあって待っている存在、過去は移動していく人間がそこから去っていく存在である。このとらえ方による表現には次のような例を挙げることができる。⁴⁾

図 2

- i 人生の終わりに近づいていく。
 - ii 素晴らしい未来に向かって進んでいく。
 - iii あの辛い日からやっとここまで来た。
- 時間
○→…○→…○→……→
人間

このタイプの時間と人間の相対的關係は図 2 のように表すことができる。実線——で示される時間は静止した存在「静」である。この時間上には人が移動していく際の通過点や到達点としての i 「人生の終わり」や ii 「素晴らしい未来」、iii 「あの辛い日」などが存在している。一方○で示される人間は…→方向に移動する「動」としての存在であることを表す。

3. 2. 2 “A 离 B · X” における時間と人間

ところで本稿で考察の対象とする“A 离 B · X”における時間と人間との関係は上記では②のタイプに相当する。すなわち時間＝静、人間＝動というとらえ方である。冒頭にあげた《现代汉语八百词》

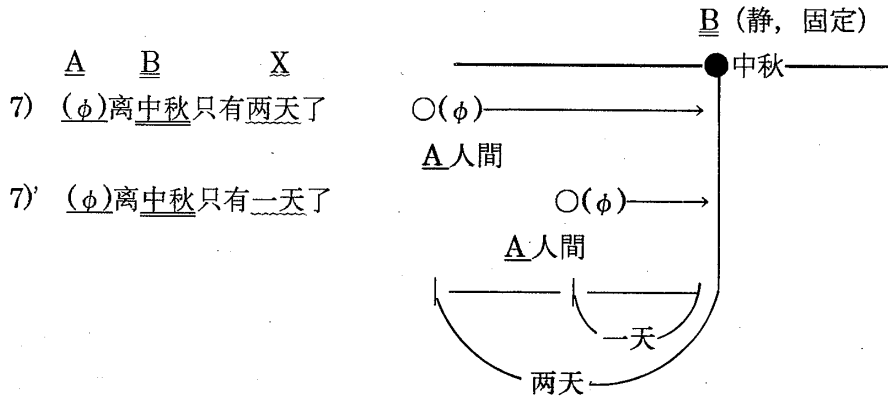
“離” 3.b の用例を例に証明してみよう。

7) (φ) 离中秋只有两天了 (中秋まであと 2 日しかない) この 7) で “两天” (2 日) を “一天” (1 日) とすると次の 7') になる。

7') (φ) 离中秋只有一天了 (中秋まであと 1 日しかない)

これらは図 3 のように図示することができる。

図 3



A: φ = 表現主体である人間の存在する現在 = 相対的「動」

B: 中秋 = 時間軸上の時点 = 相対的「静」

二時点の一方に相当する“中秋”は時間軸上に存在する場所としての時点である。ここでは時間は相対的に「静」ととらえているから，“中秋”は固定的なものである。一方もうひとつの時点 A は明示されていないが、表現主体の人間が存在する現在と一致することは明らかである。ここでは人間は「動」としてとらえられ、移動していく存在である。一般に表現主体の人間が存在する時点は現在であり、また「今日」でもあるから A が示されない場合、そしてそれがほとんどであるが、A は表現主体の人間が存在する時間であり、人間の移動につれて変化する可変的と考えることができる。これは“A 离 B・X”で文末に変化を表す“了”を伴うこと、すなわち、表現主体としての人間が存在する今日現在という A 時点が可変（動）、時間軸上の B 時点は固定された静であることの表れである。このことは B “中秋”は変わらずに 7) の“两天”が一日経過後の 7') には“一天”と変化することからも理解される。

A が可変的である一方で B が固定的、静的であることは“離”が空間的隔たりを表す場合と異なる点であり、時間的隔たりを表す際の大きな特徴として挙げられる。これが日本語に訳出される時に空間的隔たりは「～から」とされるのに対し、時間的隔たりは「～まで」となることに関係する。すなわち表現主体の存在する場所（時点）A は未来方向（図の→方向）へ移動していく動的存在で、A は時間軸上で固定的な B へと近づいていく。この AB 間の隔たりを問題にすると、固定的で動かない一方が「基点」として作用するのは自然である。そして A は B に達するのを極限として、AB 間の隔たり X は時間の経過と共に小さくなっていく。すなわちカウントダウンされていく。ゆえに「B まで」とあたかも到達点であるかのごとく訳出される。

一方、空間的隔たりにおいては A, B の 2 地点は当然ながら動かず固定的である。したがって時間からは独立し、AB 間の空間的な物理的隔たりは固定的なのである。

3. 2. 3 「隔たり X」の「固定」と「可変」

前節でふれたように、AB 間の「隔たり X」は固定的な変化のない隔たりと、可変的な隔たりとが

ある。ここでは固定的な隔たりと可變的な隔たりについて考察しておきたい。

時間的隔たりを言う場合、一般にAは明示されず言語主体である人間の存在する現在を表すことが多いことは先に述べた。しかし時間的隔たりに言及しAが明示される場合もある。それは既に実現をみた時点である。すなわち過去のある時点であればAは時間軸上で固定的となり、その場合AB間の時間的「隔たりX」も固定的となって、先に述べたように空間の隔たり表現と変わらないことになる。たとえば次の8)のような例を挙げることができる。ここではA、Bは何れも過去の時点であり「固定的」である。従って隔たりXに相当する“没有多远”(そう遠くない)は変化は含意されず、空間的隔たりと同様の見立てがなされている。

8) 反正唐朝离宋朝也没有多远 (いずれにせよ唐も宋からそう遠くない)

一方Aが現在を表す語をもって明示される場合、あるいはAが明示されずに表現主体の存在する現在を表す場合、既に述べたようにAは可變的となり、結果としてAB間の隔たりXも可變的となる。このときXは単に隔たりを示すだけでなく、「変化の含みを表す」ことが必須となる。これは次に挙げる9)~12)のaから変化を担う表現部分を除き、単なる隔たりのみを表す表現bとした場合、いずれもbは成立しないことから証明できる。

9) a 离中秋越来越近了

*b 离中秋很近

10) a 离开车只有两个小时了

*b 离开车有两个小时

11) a 离考试还有十天

*b 离考试有十天

12) a 离出发不到十分钟了

*b 离出发有十分钟

以上見たように、Xが単に隔たりを表すだけでは文として成立せず、変化の含みを有することが求められることは、時間的隔たりの一方であるAが現在を表し、それが言語主体としての人間の存在時点であることからAとBに相対的な「静」と「動」の関係が生じていることに起因する。

3. 3 時間的隔たり “从A到B”

空間的位置関係においては“从A到B”の2地点ABを入れ換えた2つの文を考えるならば、その移動の架想経路や移動の所要時間が異なることがあっても、いずれも成立した。しかし空間から時間へと場を移すと事情は異なる。時間においては一部の例外を除き2つの時点を相互に入れ換えて文として成立させることはできない。すなわち必ず時間順に旧から新へAからBへと表現されるという制約を受ける。

次にあげる13)、14)において、時間の進行順にABが表れるaはどちらも成立するが、新から旧へと時間の進行と逆行する順でABが表れるbはいずれも成立しない。

13) a 从八点到九点我在家

*b 从九点到八点我在家

14) a 从唐代到宋代有三百多年

*b 从宋代到唐代有三百多年

先に第2章でみたように、空間における2地点A、Bの位置関係を表す場合には、 $A \rightarrow B, B \rightarrow A$ 双方向の架想経路がいずれも想定可能であった。これに対し、時間的隔たりにおいては時間がたどると考えられる経路、すなわち時間の進行経路は一般に過去から未来への一方向と理解され、ABの入れ換えができないからである。これはまた、時間においても空間と同様に“从A到B”が単なる範囲を表

すのではなく、移動経路も併せて想定されていることの傍証ともなろう。

一方、“離”によって示される“A離B・X”におけるABは固定された時間では次の15)のように時間軸上での進行順に表れるaだけでなく、逆行する順bでも許される例が見られる。

15) a 唐朝离宋朝有三百多年

b 宋朝离唐朝有三百多年

この15)の構文は図として焦点があてられた主語A(aでの“唐朝”,bでの“宋朝”)についてB(aでの“宋朝”,bでの“唐朝”)からの隔たりがいかにほどかを述べるものであり、時間の移動という事態は関与せず、したがってここには移動経路が想定されないからである。これは7)の例と同様、空間的隔たりの見立てと考えることができる。また固定された時点は抽象的場所化すると説明した保坂1998からも説明できる。

4. 結び

本論では中国語における時間と空間に関わる表現形式のうち“从A到B・X”,“A离B・X”で表されるものについて考察を加えた。これら2つの類似表現はいずれも時空の隔たりを表すのに用いられる。二地点ABの空間的隔たりに関しては“从A到B・X”はAB間の範囲が主語となり、AB間には架想経路が想定され、述語には動的表現をとる。一方“A离B・X”ではAは主語として焦点があてられ、述語には必ず状態を表す静的表現をとる。

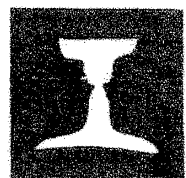
また、二時点ABの時間的隔たりに関しては、時間と人間の把握の仕方が関与的である。すなわち時間と人間の相対的静と動が大きく関与する。“从A到B・X”の表現では、一般に時間の進行順にABが表れ、逆行するBAの順では成立しない。しかし“A离B・X”においては既に実現をみた時点であれば抽象的な場所としての見立てがはたらき、A、Bは時間と逆行する順でも成立する。

本稿で取り上げることのできなかつた他の類似表現についての研究は、今後の課題としたい。

〔注〕

- 1) Talmy のいう「架想経路」とは移動事態において考えられる、図として移動する物体「トラジェクター」がたどる三種類の経路の一つである。三種類の経路とは「開放経路」、「閉鎖経路」そして「架想経路」である。開放経路は経路の起点と終点が異なる経路で、ある点から別の点に伸びる矢印のような経路のことをいう。閉鎖経路とは円を描く矢印のような経路で、起点と終点が一致する経路のことをいう。ここで取り上げる架想経路は他の2つの経路とは異なり、普段動きのない位置関係に架想された経路が関与しているものとし、概念化されたものをいう。
- 2) 人間が対象を認知するときには、際立っているもの、突出したものを選び出し焦点をあてる。この時、焦点化されたものが「図」、その背景にあるものが「地」という概念である。このメカニズムを説明するものに心理学者ルビンによる有名な「顔と花瓶」の曖昧図形をあげることができる。たとえば「顔と花瓶」の図形を「向き合う二人の顔」と認知するなら、この図形の「図」は「二人の顔」となり、顔以外の白い部分は「地」となる。また当該図形を「花瓶」と認知するなら花瓶以外の黒い部分が「地」となる。このように図と地はどちらに焦点をあてるのかによって異なる。
- 3) i ~ iii の例文は山梨 1995P50 による。
- 4) 同上

「顔と花瓶」の図



山梨 1995 より

〔参考文献〕

- 呂叔湘 1980 《現代漢語八百詞》 商務印書館
- 李芳傑 1983 〈説“從…到…”〉《漢語語法和規範問題研究》 武漢大学出版社
- 寺村秀夫 1982 『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』 くろしお出版
- 山梨正明 1995 『認知文法論』 ひつじ書房
- J. レイコフ著池上嘉彦他訳 1993 『認知意味論』 紀伊国屋書店
- 保坂律子 1998 「“離” が表す時間的隔たり」『お茶の水女子大学中国文学会報』 第 17 号
- 保坂律子 1999 「隔たりはどう表現されているか」『お茶の水女子大学中国文学会報』 第 18 号
- 楊凱榮 1998 「“時間到了” と “時間来了”」『中国語』 1998 年 9 月号
- 田禾 1998 「“從字句” の分析と教授法」 第 6 回現代漢語教学研究会口頭発表
- 保坂律子 1999 「“從” が表す出発点・“到” 表す到達点」 駒沢女子大学研究紀要第 6 号